

広報誌

宇城総合だより

① 特集 震災を越えて 宇城総合病院 病院長 江上 寛

③ DMAT活動～まさかの熊本地震～

④ リハビリテーション部

平成28年熊本地震に対する活動について

⑤ 熊本地震後の災害支援活動報告

⑥ 熊本地震を振り返って

⑦ 「えいよう号」増刊号のお知らせ／

熊本地震災害時避難所に出向いて

⑧ おいしい病院食レシピ

⑨ やすらぎ～連携室～／相談をご希望の方へ

⑩ 外来診療医師一覧表

復興へ向け
希望の未来へ



（ご自由に
お持ちください）

特集

震災を越えて



宇城総合病院 病院長

江上 寛

皆様お疲れ様です。この度の熊本地震により被災されました地域の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。宇城地域は震源の一つであり、気象庁から発表されたデータによれば、前震と本震の間の4月15日午後10時頃に宇城震源の震度6強の地震があり、この地域は震度6強の地震に3度見舞われたことになります。これが宇城地域の被害の大きさの要因の一つと考えられます。宇城総合病院も大きな被害を受けました。外壁の一部が落下し、大窓のサッシやガラスが破損し、パイプの損傷による漏水や一部診療機器の破損など内部設備にも損害が発生しました。幸いにも、柱・梁、重要機器など病院の躯体に関わる大きな損傷はなく、4月14日の前震、4月16日の本震を通して診療を継続することが出来ました。被災地の災害拠点病院は、発災後もその機能を維持し、被災患者を含めたすべての患者さんの診療にあたらなければなりません。今回の震災では、発災直後の初動期、急性期、その後の亜急性期、慢性期と災害後の各時期に応じて継ぎ目無く診療する

ことができ、その役割を果たすことが出来ました。これもひとえに皆様からの物心両面にわたる温かいご支援の賜物と存じます。県内外から頂きましたご支援、ご協力に感謝申し上げます。

4月14日午後9時35分、病院では夜勤体制の中、震度7（宇城地域震度6強）の前震に見舞われ、配管の損傷による水漏れとそれによる床上浸水が発生しました。その対応に追われる中、最初の外傷患者さんが運ばれ、救急外来は本番を迎えました。少し落ち着きを取り戻した矢先の4月16日午前1時、本震が発生し、救急外来は患者さんであふれ、二日間で170名の外傷患者さんが来られました。その後も避難所、車中泊での体調の悪化や急病の発症、持病の悪化など、発災後2週間で約2,000名の方が外来受診され、救急車の搬入台数は160台に及びました。幸いにも、病室の被害は少なく、けがをされた方もなく、入院されていたすべての患者さんに通常通りの治療を継続することができました。

一方、病院の外来ロビーと待合スペースにはピーク時で約160名の方が避難してこられました。駐車場にも車中泊をされている方が多数おられ、病院は夜間、休日も施設を開放しました。ただ、余震が続き、安全の

被災後避難場所として開放した待合スペース



ため業務用エレベーターを停止させなければならなかったのは想定外でした。200名以上の患者さんの食事を1日3回運びあげなければならず、リレー方式で一膳ずつ階段を運び上げました。これには結構体力を使いました。病棟は発災翌日には入院患者さんで満床となり、ベッドを増設して入院治療に当たりました。職員はそれぞれが被災しているにもかかわらず、発災直後から4時間以内には夜勤勤務者19名の他100人が駆け付け、被害を最小限にいくため、機能を維持し、業務を継続することが



ドクターヘリ搬送

出来ました。24時間以内には通常勤務者を含みほぼ全職員が集まり、業務分担を含めた災害対応体制が整いました。振り返れば、発災後72時間の初期期と、続く急性期の診療をいかに行えるかが最初の関門であり、亜急性から通常診療にスムーズに移行していけるかが次の関門でした。私たちも初動、急性期を経たところで先の見えない疲労感と不安感にさいなまれましたが、幸いにも発災1週間後に、東京都の南多摩病院AMAT teamが到着し、2チームが交代で1週間にわたり支援をしてくれ



AMAT teamによる医療支援

ました。夜間、休日の救急外来の1ブースを担当してくれたおかげで、当院職員の負担が軽減されただけにとどまらず、救急医療の第一線で頑張っている若い医師、看護師の仕事ぶりを見ることができ、私たちのモチベーションもぐっとあがりました。この支援もあつて、なんとか乗り切ることができました。まさに病院の気力、体力のすべてを動員した総力戦でした。

本震があつた夜、病棟で90歳のおばあちゃんが「こんなことは生まれて初めて」とぼつりと言われました。笑って励ましながらも、自分たちがいままさに歴史的震災の真只中にいるということを実感させられました。大変な思いをした震災でしたが、助け合いながらこのつらい期間を一緒に乗り越えたことで、地域の皆様、そして職員相互にこれまで以上の強い一体感が得られたような気がします。かけがえのない経験をしました。さあこれから復興です。先日の参議院選挙の前には、復旧ではなく夢のある復興だとの力強い言葉をたびたび耳にしました。時間が経過してもこの言葉どおりであることを信じて、原形復旧ではなく以前よりもさらに強く復興したいと念願しています。これからもご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

災害時に活動する医療チームの1つに『DMAT』というものがあります。

DMAT Disaster Medical Assistance Team

大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うため、厚生労働省の認めた専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チーム。

(日本DMAT活動要領)

今回の震災におきましても、熊本県からの要請で日本中のDMATが熊本に参集し医療支援活動を実施しております。その活動は被災地での直接的な医療行為はもちろん、被災した医療機関からの患者搬送、疲弊した医療機関への人的支援、熊本県医療救護調整本部での本部活動など多岐にわたりました。

当院も熊本DMAT指定病院に指定され、DMATを2チーム保有しております。熊本地震発災直後の4月15日・17日・24・29日の計8日間、各地での医療支援活動を実施させていただきました。

まさか自院が被災し、その最中の派遣になるなど思いもよらぬ事態となりましたが、隊員の士気は高く、前震直後に自院に参集し、患者さまの来院に落ち着きが見えた15日1時45分、1チームがDMAT参集拠点である熊本赤十字病院に向けて出動しました。その後、益城町に移動し救護所を設営、救護

所活動を実施し、同日21時38分に帰院・解散しています。その約4時間後、本震に見舞われ、再度自院での活動に復帰しました。

今回の震災においては、JMAT・

AMAT・DPAT・JRAATなど多くの医療チームが活動し熊本を支援できた反面、情報共有の方法など改善すべき点も見つかっております。当院におきましても、決して起きて欲しくない「まさか」に備え、平時より熊本県総合防災訓練をはじめとした各種訓練への参加・隊員の技能維持を図りつつ、今後も指定病院としての役割を果たせるよう努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、この度の地震で亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。



熊本地震における宇城総合病院DMATの活動内容

派遣期間	主な活動場所	活動内容
4月15日	益城町	救護所運営
4月17日	宇城市	災害医療コーディネーターチーム活動(救護所把握)
4月24日～27日	益城町	益城町DMAT本部業務
4月28日～29日	熊本県庁	熊本県庁DMAT本部業務



JRAT 活動

リハビリテーション部

(リハビリテーション部 山下智弘)

平成28年熊本地震に対する活動について

JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)

JRAT Japan Rehabilitation Assistance Team

大規模災害時において、救急救命に継続したリハビリテーションによる生活支援等により、生活不活発病等の災害関連死を防ぐことを目的とした、リハビリテーション関連団体で構成された災害時支援の協議会。

平成28年熊本地震に対し、リハビリテーション部は「宇城地域リハビリテーション広域支援センター」の役割の一環として、宇城圏域の災害リハビリテーション支援としての活動を行いました。宇城地域リハビリテーション広域支援センターは、災害時には市町村及び熊本県災害派遣福祉チーム（熊本DCAI）等と連携し、避難所等での生活不活発病対策などの支援活動に取り組むため、平成27年度より、熊本県災害リハビリテーション推進協議会に登録し活動を開始しておりました。

そんな矢先に今回の地震が発生し、本震直後より宇城保健所様からの派遣依頼もあり、宇城地域での支援活動をするべく、JRATの活動として、4月22日～26日の5日間第1班(理学療法士2名)、4月27日～30日の4日間第2班(理学療法士2名)が協力しました。JRATでの活動は、医師とチームを結成し、まずは宇城圏域(宇城市・

宇土市)の各避難所アセスメント・避難所の環境調整から始まり、エコノミークラス症候群対策(パンフレットの配布、集団体操、個別指導、弾性ストッキングの配布・装着)その後、生活不活発病への対策(環境整備、集団体操、個別指導)を行いました。5月9日からは、JRATの活動をそのまま宇城地域リハビリテーション広域支援センターにて引継ぎ、宇城市保健福祉センターで行われるミーティングにて他職種(行政担当者様・DPAT・保健師・看護師・管理栄養士等)と連携、情報共有しながら宇城市の避難所を毎日巡回し、生活不活発病への対策を主な活動として行いました。6月前半は月・水・金の3日間、後半には火・木・金の2日間宇城市の避難所を定期巡回し、継続して生活不活発病への対策を行いました。

また、7月6日から9日まで4日間、JRAT本部へ理学療法士が1名「ロジスティック」として支援しました。7月14日に

は、「熊本県復興リハビリテーションセンター」が設立され、今後も熊本県と連携し被災された方々の支援を行います。同時に宇城市各地域に仮設住宅が建設され、仮設住宅への訪問を行政担当者の方々に同行し、場合によっては個別ケースへの対応を行いました。今後も仮設住宅で生活をされている被災者の方々への長期的且つ継続的な支援を行い、生活不活発病への対策やコミュニケーション作りの支援をリハビリテーション部は支援していきます！



熊本地震後の 災害支援活動報告

(看護師 井澤信太郎)

平成28年4月14日午後9時26分熊本地方でM7の地震が発生、さらに4月16日午前1時25分にM7の地震が発生しました。私はDMATとして4月15日に、熊本県災害支援ナースとして4月27日から28日にかけて、益城町で災害支援活動を行いました。

DMATでは益城保健福祉センターでの応急救護所の開設・救護活動を実施し、30名近くの方に対応しました。緊急搬送症例で、いざ搬送となった時にご家族の方が不在で、結局本人だけ搬送された事が印象に残っています。救護活動後は益城町役場へ移動し、当初18日まで益城で活動する予定でしたが、その後、後発隊の確保が出来た為撤収となり病院へ戻りました。帰宅後布団に入った直後、本震が発生したのを覚えています。

県看護協会から派遣された災害支援ナースでは、避難所となっている阿蘇熊本空港ホテルエミナースで夜間活動を行いました。40名程の健康相談・車中泊者にエコ

ノミ―症候群の注意喚起・ノロやインフルエンザの感染対策を行いました。今後の生活に不安を抱えながらも、看護師に感謝の言葉を下さった方が多かった事を覚えていきます。

今回の災害支援活動において一番感じた事は、自分自身で出来る事は少ない、でも皆が協力すれば何とかなる”という事です。皆で協力してあの混乱を乗り越えていた様に思います。今回の貴重な経験を忘れず、今後も活動していきたいと思っています。



熊 本地震を振り返って

(薬剤師 森伸子)

今回の熊本地震では多くの施設が被災し、この施設でもその対応に苦労されたと伺っております。当院でも災害対策本部のもと災害拠点病院としての役割を全うすべく、すべての職員が一丸となり活動してまいりました。この度その活動内容を紹介する機会を頂きましたので、当院薬剤科の動きについてご報告します。

4/14(木)の前震では自主的な出勤者により、夜間の救急外来患者さんに対しての薬剤指導を行うこととしました。4/15(金)午前1時30分には梅木拡高がDMAT隊員として出動し、益城保健福祉センターに救護所を立ち上げて24時間の活動を行いました。さいわい建物自体に大きな損傷はなく、薬剤科内の被

害も大きなものはなかったため4/15(金)朝より通常業務に戻り無事に週末の一日を終えることができました。

4/16(土)の本震後も出勤できる職員が交代で勤務し、土日の救急外来患者の対応を行うこととしました。また、4/19(火)までは夜間も病院内に待機し、不測の事態に備えることとしました。4/18(月)からは門前の調剤薬局が営業されたため、薬剤師は入院患者さんを中心とした対応に切替えました。特に4月中は病床数を増やすため外来病棟が立ち上がり、入院院が増えたため持参薬鑑別や退院時の薬剤管理指導が主な業務となりました。

4/22(金)には熊本県薬剤師会から宇土市

の避難所である宇土市民体育館への派遣要請があり、4/23(土)～4/27(水)まで1名ずつの薬剤師派遣を行いました。避難所では鹿児島JMATチームの避難所巡回に同行し、避難者の薬に関する相談を聞いたり、医薬品・OTC薬を発注するなど薬品管理をすることでも微力ながらお手伝いさせていただきました。

今回の震災では当院の建物・電子カルテシステムが使用できたことや、卸業者が休日の薬剤の発注に対応して頂けたことにより大きな混乱が起きませんでした。が、どれかが欠けた状況ではどのような対応をしなくてはならないかを考えておかなければならないと痛感しました。



▲4/14 余震後の薬剤科



▲4/16 本震後の薬剤科



▲4/26 宇土市民体育館で
鹿児島JMATチームと



「えいよう号」増刊号のお知らせ

(管理栄養士 北原麻希子)

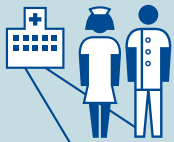
当院の入院患者様向けに毎月発行している「えいよう号」!!

栄養、食事についての旬な情報をいち早く伝える為、そして行事や嗜好調査の結果等栄養管理科の業務の一部を紹介しています。この度、発行した「えいよう号」を創刊号として一部ではありますがまとめてみました。改めて「えいよう」に関心をもつ皆様がたに読んでいただけると嬉しいです。



よんでいただけると
うれしいです

外来や各病棟の
談話室に他の雑
誌と一緒に並べ
てあります。



熊本地震災害時避難所に 出向いての感想…5月始め

(管理栄養士 野村千津子)

この度の震災で被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。私たち管理栄養士も被災地へ出向き、お手伝する機会を頂きました。その現場で以下のような声が主に聞かれました。

- ① 野菜の摂取が足りない
- ② 硬いものが食べられない(咀嚼・嚥下の問題がある)
- ③ 便秘で困っています(水分が少ないのかも)
- ④ 温かい料理はありがたい



大変な状況の中で食生活のちょっとした工夫、努力されてはいましたがまだまだ万全ではありませんでした。やはり、野菜や水の摂取は少なく体調管理も大変そうな印象を受けました。食事は第一に安心して食べられる物でなければいけません。炊き出しの食事や仕出し弁当、缶づめ、非常用のパン、栄養補助食などを上手に活用し、安全でおいしい食事を提供すること。と同時に長期化を見越して偏食とならないような早めの対策が必要であると実感しました。

おいしい 病院食レシピ(朝食)

当院で提供している美味しくて
健康づくりに寄与する、家庭でも簡単に
できるメニューの紹介。

(管理栄養士 野村千津子)

材料(二人分)

●麦ごはん

麦 …………… 40g
米 …………… 100g

●味噌汁

大娘 …………… 80g
こねぎ …………… 4
味噌 …………… 大さじ1杯
煮干し …………… 4

●菜焼き

小松菜 …………… 140g
油揚げ …………… 30g
油小さじ …… 小さじ2杯
薄口醤油 …… 小さじ1杯弱
本みりん …… 小さじ1/3杯

●焼き鮭のとろろ巻き

鮭 …………… 30g×2切れ
醤油 …………… 小さじ1/3杯
酒 …………… 小さじ1/3杯
油 …………… 小さじ1杯
とろろ昆布 …… 3g
オクラ …………… 40g
薄口醤油 …… 小さじ1/3杯
ごま …………… 小さじ1/3杯

●フルーツ

キウイフルーツ…1/2個×2



エネルギー…480kcal、塩分量…1.5g、たんぱく質…18g/1人分

●菜焼き

熊本の郷土料理のひとつですが、残念ながら若い人には馴染みが薄いかも…？ですね。野菜が一度にたくさん摂れて油揚げと一緒に入る事で、薄味でも十分美味しいです。サッと炒めるのがコツですよ。

●焼き鮭のとろろ巻き

焼いた鮭にとろろ昆布を巻き付けた簡単料理です。昆布の塩分をいかした薄味の1品です。

添えのオクラは、さっと茹でて適当な大きさに切ります。薄口醤油とごまで和えます。〈※オクラのネバネバ成分のムチンは、熱に弱い成分です。過度な加熱は禁物です。〉

【果物一品】 キウイフルーツ



秋が旬です。甘みと酸味のバランスがよく、ビタミンCを多く含みます。タンニンも含みますが苦味は少ないです。肉をやわらかくするたんぱく質分解酵素を含みます。生食が多いですが裏ごししてソースやジャムにも用います。

熊本地震の対応

《①避難者の方への対応》

宇城市では、四月十四日の前震後、市内十四箇所に避難所が開設され、多くの方が避難されました。四月十六日の本震後さらにその数も増え、車中泊される方も多くみられたようです。当院には、前震直後から自主的に避難される住民の方もおられ、一階外来待合コーナーを使って避難者の方の受入れを行いました。ただし平日は、外来業務を継続した為、避難者の方の御協力を得て、外来業務がある時間帯を除く午後六時～午前七時までの時間帯としました。避難者の方の受入れは四月二十七日までの十四日間で延べ七九六名でした。地域医療連携室は、避難者の方への声掛けや健康管理、三時間毎の巡視等全般的な対応を行いました。

また、四月二十二日からは、宇城市より支援物資も届き避難者の方への配給も担当しました。



▲避難者の方の受付



▲避難場所：一階外来待合コーナー

《②退院支援》

当院は二次救急病院であり、前震直後より救急外来には多くの患者さんが受診され、入院患者さんの増加が予測されました。地域医療連携室では、入院ベッドを確保するため、直ちに宇城圏域の医療機関や施設、避難所の空き状況や受入れ状況の把握を行い退院支援に繋がりました。おつて、宇城市地域包括支援センターから宇城市施設の空床情報も届いたため、空床一覧表を作成し院内で閲覧できるようにしました。また、自宅退院予定の患者さんの家屋の被災状況を聞き取りし、退院先や退院後の生活について、御家族の方も含めて随時面談を行いました。避難所や車中生活を送られる御家族も多く、退院先に悩まれる本人・御家族もいらつしやいました。

そのような中、災害ボランティア利用を支援することで家屋を清掃し自宅に戻られた方もいました。しかし、家屋環境を整えるのに時間を要する家庭もあり、親戚宅や近所の知人宅、市開設の避難所やアパートへの退院調整も行いました。また、臨時的に増床して対応された医療機関や施設の御協力を得ながら退院支援を行いました。

今回の震災では通常業務と並行しながら、避難者の方の対応や災害時の退院支援等多くの事を学ぶと共に地域の支え合いや連携の大切さを改めて実感しました。

(社会福祉士 養田将平)

相談をご希望の方へ

担当医や看護師に申し出ていただくか、直接医療福祉相談室(地域医療連携室)にお越し下さい。

※事前に電話などで面接のご予約をしていただくことも出来ます。また、電話でのご相談もお受けいたします。



医療福祉相談室(地域医療連携室)

TEL／0964-32-3218(直通) 0964-32-3111(代表)

○時間：祝日を除く、月曜日～土曜日8:30～17:30 ○場所：1階(外来30番受付斜め前)

外来診療医師一覧表

2016年9月1日更新

診 療 科			受付時間	月	火	水	木	金	土		
外 科 消化器外科	午前	新来	8:30 12:00	多森靖洋	前田健晴	栗崎貴	栗崎貴	井上耕太郎	担当医 救急対応		
		再来		多森靖洋	前田健晴	担当医	栗崎貴	井上耕太郎			
	午後担当医			多森靖洋	前田健晴	栗崎貴	栗崎貴	井上耕太郎			
整形外科 *	午前	新来	8:30 11:30	山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉			
		再来		山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉			
	午後担当医			山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉			
リハビリ科	午 前	(月・水・木)8:30～10:00 (火・金)8:30～12:00	担当医	井 賢治	担当医	赤城哲哉	井 賢治				
麻酔科 (ペインクリニック)	午前	新来	(月)8:30～11:00	荒川和也	—	—	—	荒川和也			
		再来	(金)8:30～ 9:30	荒川和也	—	—	—	荒川和也			
泌尿器科	午前	新来	8:30	中村武利	—	—	中村武利	—			
		再来	11:30	中村武利	—	—	中村武利	—			
	午後担当医		(予約のみ)	中村武利	中村武利	—	中村武利	—			
内 科	呼吸器内科	午前	8:30 12:00	—	福田秀明(非)	—	福田秀明(非)	—			
		再来		—	福田秀明(非)	—	福田秀明(非)	—			
	※月・水・金の呼吸器内科医は不在です。呼吸器内科専門医の診療は火・木のみとなります。										
	循環器内科	午前		新来	神波やよい	非常勤	泉家康宏(非)	老松 優(非)		神波やよい	
		再来		神波やよい	非常勤	泉家康宏(非)	老松 優(非)	神波やよい			
	神経内科	午前		新来	—	—	俵 望(非)	—		—	
		再来		—	—	俵 望(非)	—	—			
	人工透析 内科	午前		新来	—	盛三千孝	—	—		—	
		再来		—	盛三千孝	—	—	—			
	内 科	午後担当医		蛸原賢司	盛三千孝	神波やよい	蛸原賢司	神波やよい			
総合診療科	午 前	8:30～12:00	竹田晴生	江上寛	竹田晴生	松田貞士	竹田晴生				
小 児 科	午前	新来	8:30～12:00 14:30～16:30	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男			
		再来		板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男			
	午後担当医			板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男			
放 射 線 科	読影担当医		前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	—			
救命救急 センター	外科系・内科系	午 前		栗崎貴	松田貞士	前田健晴	井上耕太郎	多森靖洋	担当医 救急対応		
		午 後		前田健晴	井賢治	松田貞士	井上耕太郎	多森靖洋			
	整形外科系			山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉			
糖尿病センター	午 前	8:30～12:00	竹田晴生/蛸原賢司	竹田晴生	竹田晴生/蛸原賢司	竹田晴生	竹田晴生/蛸原賢司				
腎透析センター	～15時		盛三千孝	中村武利	盛三千孝	盛三千孝	中村武利	盛三千孝又は中村武利			
	15時～		盛三千孝	—	盛三千孝	—	非常勤	—			
リハビリテーション センター	午 前	9:00～11:30						—			
	午 後	13:30～15:30									
健診センター	担当医	予約制	並川和男(非)	村上幹彦(非)	村上幹彦(非)	村上幹彦(非)	並川和男(非)	—			

*診察には「紹介状」が必要です。(紹介状がない場合は、選定療養費として2,000円が必要となります。) ※(非):非常勤医師

※総合診療科ブース…(火・木)内科5診／(月・水・金)糖尿病センター



外来初診時は紹介状(診療情報提供書)が必要です

平成26年4月1日をもって増床により200床以上の医療機関へ移行しました。これに伴い、外来初診時は紹介状が必要となりました。つきましては、他の保険医療機関等からの紹介状がなく、当院に直接来院される患者さんについては、初診に係る費用として2,000円をお支払い頂くこととなりましたので、何卒ご理解下さいませようお願いいたします。



整形外科外来は完全紹介型です

整形外科外来は、平成26年9月1日より完全紹介型へ移行しました。初めて整形外科外来を受診される際、紹介状がない場合は診察ができません。必ず紹介状をご持参くださいますようお願いいたします。

※ただし、緊急その他やむを得ない事情により、他の医療機関からの紹介によらず来院した場合にあってはこの限りではありません。

平成28年度 理念・基本方針

《 理 念 》

・私たちは信頼される医療をとおして地域に貢献します

《 基本方針 》

- ・良質で安全な医療を実践します
- ・診療機能の充実を図り 地域のニーズに応えます
- ・接遇の向上に努め 快適な受療環境を提供します
- ・情報を公開し 公正な管理運営を行います
- ・勤務環境を改善し 魅力ある職場をつくります



社会医療法人 黎明会

宇城総合病院

URL <http://www.reimeikai.jp/>

〒869-0532 熊本県宇城市松橋町久貝691

Tel.0964-32-3111 Fax.0964-32-3112

